

来訪手段に着目した観光交流施設の利用実態調査

東北工業大学 正会員 ○中井 周作

東北工業大学 非会員 及川 周

東北工業大学 非会員 齊藤 瑠

1. はじめに

宮城県名取市は西部には高館山や五社山が連なる丘陵地，東部には閑上海岸，そして，名取川・阿武隈川に囲まれた豊かな耕土が広がるとともに，温暖な気候に恵まれる自然環境を有している．地域資源としては，日本最古で最長の貞山運河，東北最大の雷神山古墳，全国屈指の味と品質を誇る赤貝やセリ，東北有数の出荷量であるカーネーションなどが挙げられる．それに加えて，仙台市の中心部まで車では約 30 分，鉄道では約 14 分でアクセスでき，東北の空の玄関口と言える仙台空港があることから交通環境に恵まれた都市である¹⁾．名取市の中でも閑上地区は，江戸時代から仙台藩直轄港である閑上港を有し，名取川や貞山運河を使って木材や水産品，農産品を運搬する重要な水運の町として栄え，近年は海洋レクリエーション機能も有する水辺のまちとして特徴ある発展を遂げてきた地区である．現在，ゆりあげ港朝市が平成 25 年 5 月に再建し，東日本大震災前の 9 割程度に集客が回復している．平成 30 年に策定された閑上地区まちなか再生計画では復興をもとに新たな商業施設の整備や既存施設との連携を図り，地域資源を活用した各種イベント等の開催など，魅力あるまちづくりを目指している．



図 1 かわまちてらす閑上

そのような背景のもと，閑上地区まちなか再生計画の一環として，2019 年 4 月に「かわまちてらす閑上²⁾」という新しい商業施設が誕生した．「かわまちてらす閑上」は，閑上地区の賑わい拠点となり，国のかわまちづくり計画と連携しつつ，河川堤防と一体となった親水性ある空間において，物販，飲食等の立地誘導を図り，地区住民や，やむなく閑上地区を離れた震災前の住民，観光客，来訪者など多様な人々が

訪れ，にぎわい，憩い，あそぶ空間づくりを進めている．そこで本研究では，かわまちてらす閑上を対象として，施設の利用実態を明らかにすることを目的とする．訪問手段・目的，施設の満足度などをアンケート調査より明らかにすることで，閑上地域に潜在する課題の発見，解決案の模索の一助とする．また，かわまちてらす閑上のコンセプトである，地域住民の商業地としての日常的な利用の促進，観光地として観光客の利用状況の 2 つの側面に焦点を当てることでかわまちづくり計画の進捗状況の確認を行う．

2. 調査概要

調査は，アンケート調査紙面をかわまちてらす閑上への来訪者の方へ直接配布し，その場で記入してもらい，直接回収する形で行う．アンケート紙面は A4 : 1 枚カラーとした．調査は平日と休日に行い，11 月 29 日（金），12 月 8 日（日）（9:00～16:00）で実施した．調査場所はかわまちてらす閑上内に位置するにぎわい広場ベンチ内とした．配布枚数は 145 部で，回収数は 145 部であった．次に調査項目の概要を示す．

キーワード かわまちてらす閑上 来訪手段 利用実態

連絡先 〒982-8588 仙台市太白区二ツ沢 6 番 東北工業大学安全安心生活デザイン学科科 TEL 022-304-5599

- (1) 本日の来訪について：同伴者の有無，来訪交通手段とその満足度（5件法），来訪目的
- (2) かわまちてらす閑上について：利用満足度（5件法），施設の開業による生活動の変化，次回来訪予定の有無
- (3) 個人属性：居住地（閑上，閑上以外の名取市，仙台市，その他），今後の閑上での継続居住意思（5件法）

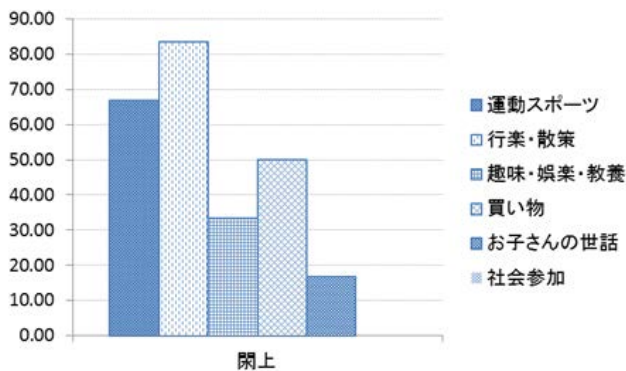
3. 集計結果

(1) 来訪について

平日 40 名，休日 105 名であり，平日・休日ともに約 8 割以上に同伴者がいることが分かった．来訪交通手段に関しては，約 9 割以上が自動車での来訪であり，公共交通であるバスでの来訪は 2 日間でわずか 1 名となっている．また，来訪手段への満足度は過半数が満足しているという結果となった．利用目的に関しては，「飲食」，「買い物」に続き，「特に理由がない」，「ふらっと立ち寄った」が多く選択されていた．

(2) かわまちてらす閑上について

図 2 施設の開業による生活動の変化（閑上住民）



利用満足度に関しては，「満足ではない」，「まったく満足ではない」という回答はなく，約 8 割の方が満足している結果となった．施設の開業による生活動の変化に関しては，約 3 割の来訪者が「行楽・散策」，「買い物」の機会が増えたという回答があった．

その中で閑上に居住する来訪者のみの結果（図 2）を見ると，「行楽・散策」，「運動スポーツ」の機会が増えたという来訪者の割合が高く，日常の生活動でもある，「買い物」の機会が増えた来訪者の割合も 5 割となった．

(3) 個人属性について

表 1 居住地の分布

居住地	(人)	(%)
閑上	6	4.2
閑上以外の名取市	12	8.3
仙台市	68	47.2
他市内	46	31.9
県外	12	8.3

居住地に関しては（表 1），仙台市が 68 名と 1 番多く，閑上以外の名取市が 12 名，閑上に居住している方は 6 名（145 名中）と少ないものの近隣住民の来訪が確認できた．また県外からの来訪者もあり，観光施設としての機能もあることが分かった．今後の閑上での継続居住意思に関しては，閑上に居住している 6 名はすべて今後も閑上に居住を続けると回答していた．

4. おわりに

本研究では，2019 年 4 月に開業された「かわまちてらす閑上」を対象として，施設の利用実態を明らかにするため，アンケート調査を行った．施設のコンセプトである，地域住民の商業地としての日常的な利用の促進に関しては，生活動の変化が観測され，居住地や利用目的からも観光地として観光客の利用を確認することができた．しかし，来訪手段はほとんどが自動車であり，公共交通での来訪が無かったことから，公共交通網の充実が更なる多様な来訪者の訪問に繋がると考えられる．

参考文献

- 1) 名取市都市計画マスタープラン：名取市，平成 30 年
- 2) 「かわまちてらす閑上」のご案内：株式会社かわまちてらす閑上，平成 29 年